



せきたん もくたん 石炭と木炭はどうちがうの

せきたん おおむかし しょくぶつ へんか 石炭は大昔の植物が変化してできた

せきたん けんびきょう しら しょくぶつ かぶん み せきたん で
石炭を顕微鏡で調べてみると、植物のつくりや花粉が見られます。それに、石炭が出る
ちそう しょくぶつ かせき で せきたん おおむかし しょくぶつ へんか
地層から植物の化石も出ることがあることから、石炭は大昔の植物が変化してできたこ
とがわかります。

せきたん おおむかし しょくぶつ ちちゅう なが あいだ へんか さんそ すいそ へ たん
石炭は大昔の植物が地中にうずまり、長い間かかって変化し、酸素や水素が減って、炭
そ 素をたくさんふくむものになりました。こうして、おおむかし しょくぶつ せきたん
大昔の植物は、石炭になりました。

せきたん しょくぶつ なかま おお 石炭をつくっている植物は、シダやトクサの仲間が多い

せきたん そう で かせき しら せかい おお たんでん せきたん やく おくねんまえ りくち
石炭の層から出る化石を調べてみると、世界の大きな炭田の石炭は、約3億年前の陸地に
しげっていた、シダやトクサの仲間なかまの木きが、もとになっていることがわかりました。

日本の石炭の層は、5000万～6000万年まんぐらい前の植物まへ しょくぶつがもとになって、できて
いるようです。

もくたん き や つく 木炭は木をむし焼きにして作る

すみ もくたん き や つく
炭のことを木炭ともいいます。木炭は、木をむし焼きにして作ったものです。木炭を作る
ことを炭焼きといい、日本では昔むかしから行おこなわれてきました。炭すみがまなかの中に木きを並ならべ、この木
なが じかん や つく
を長い時間かけて、むし焼きにして作ります。

せきたん もくたん たんそ おな かた
石炭も木炭も、おもに炭素たんそからできているのは同じですが、でき方がまったくちがうので、
せいしつ
性質がちがいます。(監修・小川 格)

